
令和 8 年度 第 1 回豊田市上下水道事業審議会 会議録

【日時】 令和 8 年 6 月 2 9 日（月） 午後 1 時 3 0 分～午後 3 時

【場所】 豊田市役所 南 5 1 会議室

- 【次第】
- 1 諮問書伝達
 - 2 市長あいさつ
 - 3 委嘱状交付
 - 4 審議会委員及び事務局紹介
 - 5 会長あいさつ
 - 6 議事
 - （1）令和 7 年度上下水道事業決算報告
 - （2）令和 7 年度水道水源保全事業決算報告
 - （3）次期水道料金のあり方について 【資料 1】
 - （4）矢作川流域の上下水道の広域連携について 【資料 2】
 - 7 事業管理者あいさつ

【出席者】 <委員>

竹内	信仁（名古屋大学名誉教授）	※会長
中山	恵子（中京大学経済学部教授）	※副会長
神頭	広好（愛知大学名誉教授）	
松本	嘉孝（豊田工業高等専門学校環境都市工学科教授）	
二宮	謙治（豊田信用金庫 専務理事）	
和泉	まり子（豊田商工会議所女性会会長）	
関口	栄治（豊田市区長会副会長兼会計）	
山田	雄三（豊田加茂薬剤師会副会長）	
安井	新弘（豊田市小中学校長会）	
大山	知子（足助地域会議委員）	
川合	成幸（下山地域会議会長）	
安藤	彰洋（稲武地域会議会長）	
城金	茂樹（公募委員）	
加藤	有花（公募委員）	

<事務局>

前田	雄治（豊田市事業管理者）	
中根	武人（上下水道局長）	
岩田	裕二（上下水道局副局長）	
森陰	幸司（上下水道局事業担当専門監）	
安藤	恒人（上下水道局総務課長）	
新岩	康正（上下水道局企画課長）	
太田	昌男（上下水道局料金課長）	

村田 宗岳（上下水道局水道整備課長）
國枝 圭介（上下水道局水道維持課長）
浦野 大一郎（上下水道局上水運用センター所長）
河合 保幸（上下水道局下水道施設課長）
神谷 幸利（上下水道局下水道建設課長）
岡田 俊樹（上下水道局経営管理課料金改定業務担当主幹）
杉山 由佳（上下水道局経営管理課副課長）
池田 浩司（上下水道局経営管理課担当長）
近藤 祐子（上下水道局経営管理課担当長）
大沼 宏太郎（上下水道局経営管理課主査）
伊奈 夏美（上下水道局経営管理課主査）
鷹見 麻菜（上下水道局経営管理課主事）
【欠席者】＜委員＞ 樹神 康之（豊田商工会議所第一工業部会会長）
鈴木 ひとみ（あいち豊田農業協同組合女性部部長）
川合 寿人（豊田森林組合代表理事組合長）

【傍聴者】 1 名

【議事等の摘要】

1 諮問書伝達

2 市長あいさつ

- ・水道事業は極めて困難な課題を多く抱えている。
- ・これを単純に料金に反映させてしまうと市民生活に影響が出てしまうため、どう工夫していくのが悩みである。
- ・料金のあり方について、審議会からの貴重な意見をできるだけ反映させていきたいと思っているのでよろしくお願いしたい。

3 委嘱状交付

4 審議会委員及び事務局紹介

5 会長あいさつ

- ・ただいま市長から「適正な水道料金等のあり方」について諮問いただいた。
- ・豊田市では上下水道料金の見直しを4年に1度行っており、今年度は水道料金の見直しの審議となる。
- ・料金のあり方等については、委員の皆様から多角的に審議いただくことが重要であるため、よろしくお願いしたい。

6 議事

（1）令和7年度上下水道事業決算報告

(2) 令和7年度水道水源保全事業決算報告

○会長

- ・基金残高が減っているが、現状のままでよい。あるいは、将来的に何か考えなければいけないことがあるか。

○事務局

- ・令和7年度については間伐面積などの要因で事業費が収入を上回ったため、一時的に基金が減少した。年度によって増減の変化はあるが、現状のままでよいと考える。

(3) 次期水道料金のあり方について

○A委員

- ・資料18ページで令和10年に受水費が上がる想定がされているが、根拠があるか。

○事務局

- ・確たる根拠はない。4年前の料金改定後に愛知県営水道が受水費を段階的に値上げした経緯があり、昨今の社会情勢や物価高の状況を踏まえ、値上げを見込んで試算した。

○A委員

- ・資料36ページの資本的収支のグラフについて、30年から40年前の数字がピークになっているが、最近の投資傾向はどのようなか。

○事務局

- ・資料のグラフは平成30年度末時点で保有する全水道施設がいつできたかを表したものの。平成5年や平成17年頃に膨大な施設投資をしており、それらが一齐に更新需要を迎えると、年間40億円から50億円規模の投資が必要となる。
- ・最近でも設備投資はあるが、当時と比較すると1年で40億円や50億円といった規模の投資はない。

(4) 矢作川流域の上下水道の広域連携について

○B委員

- ・資料において、「一本化」や「一体化」という言葉が複数使われており、何を「一本化」するのかわかりにくい。

○事務局

- ・愛知県や市町が1つの経営体になる新たな組織をつくることを「一本化」といい、その一本化が目指す方向性を「経営の一体化」という。

7 事業管理者あいさつ

- ・豊田市の他の事業であれば、収入がなければ事業をやめるという選択肢があるが、水道事業の場合はやめることができない。人工衛星データを使った漏水エリアの抽出やAIによる漏水リスク評価などを行い、更新機会の妥当性を確認しながら進めているが、今後、投資額が増えることは御理解いただきたい。
- ・本市は他市と比べて施設が多いことに起因して投資額が大きく、加えて耐震化などの投資が増加するが、これをそのまま水道料金で賄うのが合理的かどうか検討したいと考えており、次回に議論させていただきたい。

- ・最近、国の地方制度調査会では、市町村の体力が落ち、人口減少の中で、地方分権というよりは逆分権について今年から審議されている。その議論の中に水道事業も含まれており、ある県知事は、水道事業は独立採算制については限界があるという発言をしている。
- ・今後、他事例も参考にしつつ、水道事業の進め方や水道料金のあり方について考えていかなければならない。
- ・次回から具体的に料金改定の審議をさせていただくため、よろしくお願いいたします。

午後３時 終了